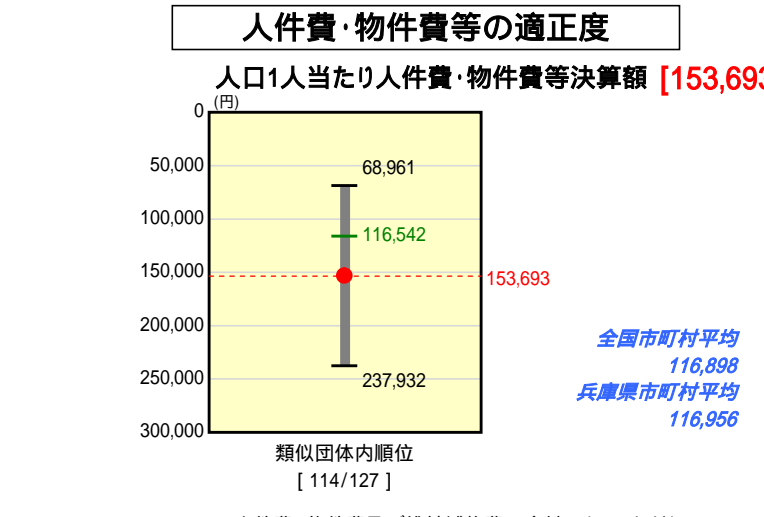
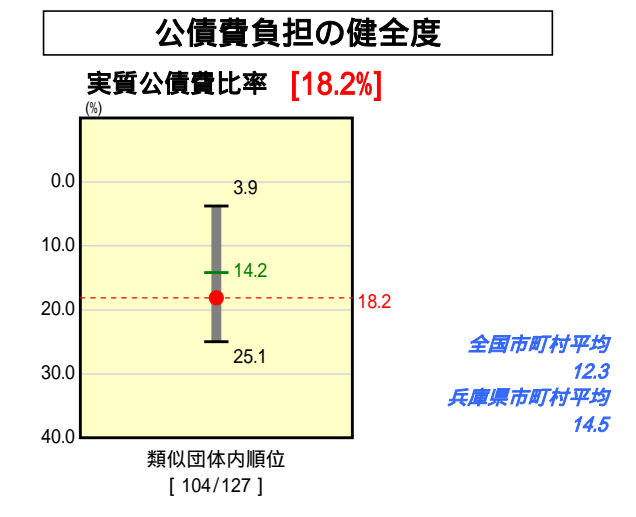
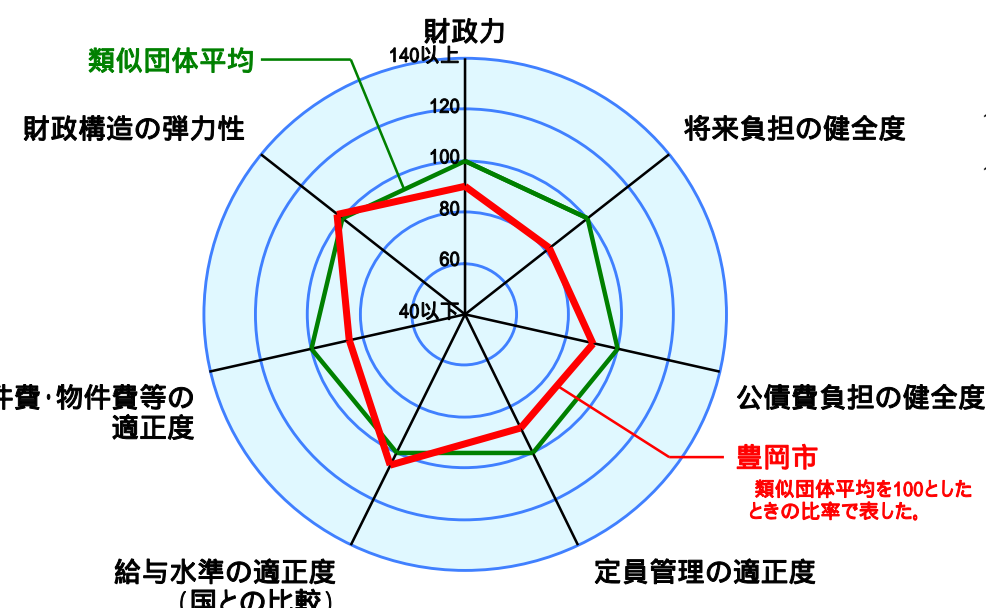
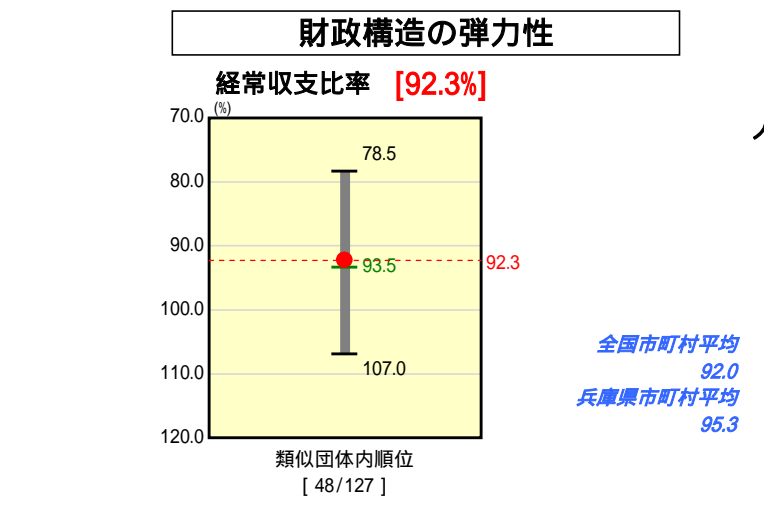
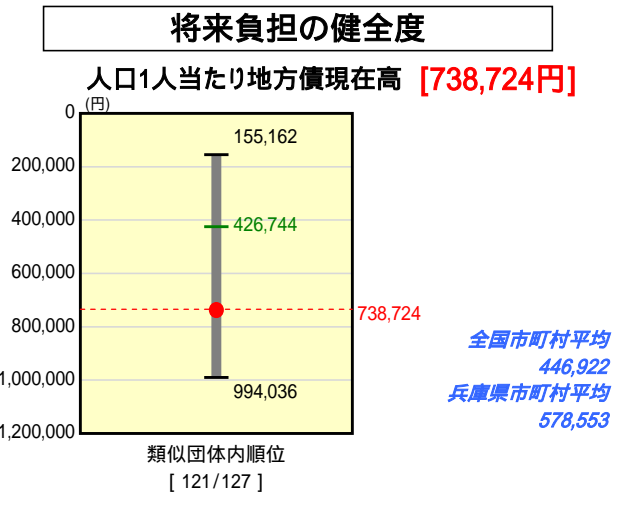
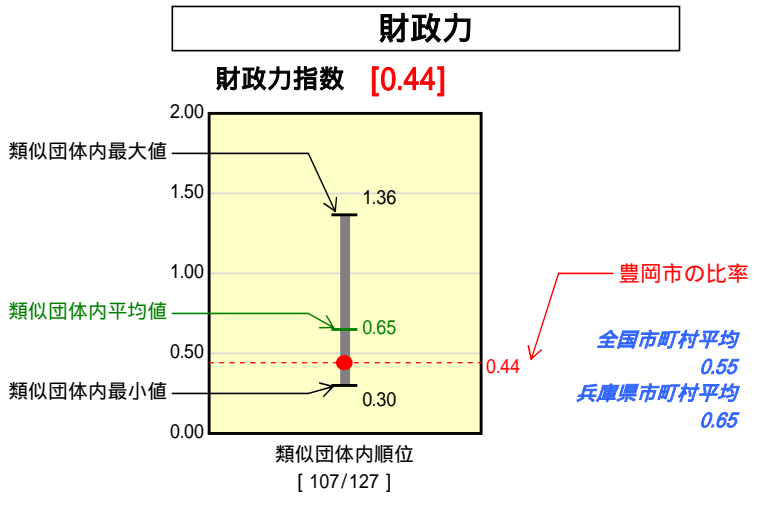


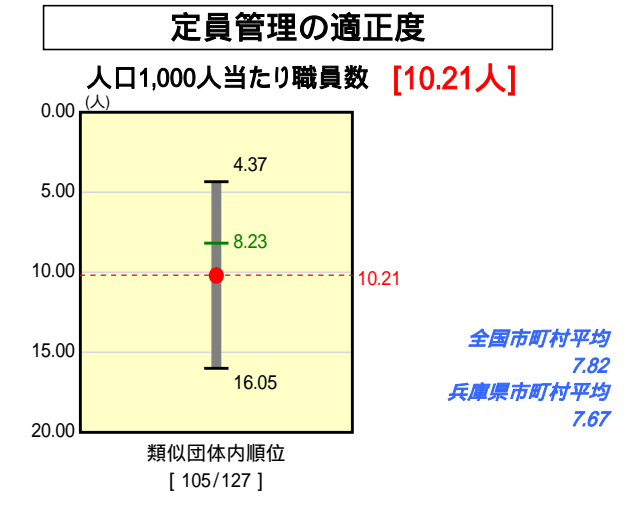
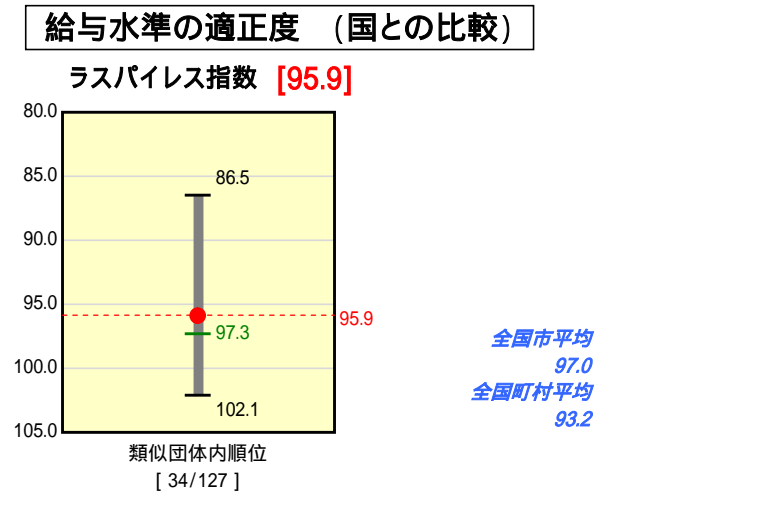
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 豊岡市

人口	90,016	人(H20.3.31現在)
面積	697.66	km ²
歳入総額	45,978,577	千円
歳出総額	45,278,332	千円
実質収支	669,976	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
合併後3回目の決算となった平成19年度は、昨年度より0.01ポイント上昇し、若干の改善が見られたものの、類似団体平均よりも0.21ポイント下回っている。依然として、交付税などへの依存度が高い状況ではあるが、地方税の徴収強化を図るとともに、歳出の削減など徹底した見直しを通じて、財政基盤の強化に努める。

経常収支比率
昨年と比べて、物件費や維持補修費などの経費削減に努めたが、公債費や下水道事業会計に対する負担金などの増加により、比率は対前年度3.1ポイント上昇と悪化した。
今後は、下水道事業についてコストに見合った適正な料金への引き上げなど、経営健全化に向けた取組みを進め、負担金の抑制に努めながら、中長期的な視点で、90%未満堅持を目指す。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
物件費について、市町合併で旧団体の施設(学校、文化施設等)を多く抱えているため、施設の維持管理経費が高み、類似団体と比較して1.3倍のコストがかかっている。引き続き、行政改革を着実に推進し、定員の適正化(H26年度末までにH17年度対比で200人程度の職員を削減)と公的施設の民営化・民間委託等により、コスト削減を図る。

人口1人当たり地方債残高
類似団体平均と比べて、1.7倍となっている。他事業における優先度、緊急度を的確に判断しながら、市債発行の抑制を図るとともに、計画的な繰上償還と合わせて、地方債残高の減少を図る。(H19年度末の665億円をH26年度末で約512億円に減額する)

実質公債費比率
H19年度決算から算定方法の改正が行われたため、前年を1.5ポイント下回る18.2%と大幅に減少したが、類似団体平均と比べると4.0ポイント高い水準にある。H23年度に公債費がピークを迎えるため数年間は高い水準で推移すると見込んでいるが、繰上償還の実施(H24までに約27億円)や投資的経費の削減によりH27年度までに18%未満となるよう取り組む。

人口1,000人当たり職員数
現在、合併後の新規採用者は、退職者の概ね3分の1補充としており、H26年度末までに200人程度の削減を図り、類似団体と同水準とする取り組みを進めている。

ラスパイレス指数
類似団体と比べて、1.4ポイント下回る結果となっており、引き続き、定員の適正化と合わせて人件費の適正管理に努めていく。